

東大和

ミライ・フォレスト通信



和地市長誕生から今年の5月でまる2年 任期4年の前半を振り返り。そして、感じていること。

■今年の5月で就任からまる2年

…2023年5月に東大和市初の女性市長として、和地市長が就任。早いもので、今年の5月には就任からまる2年が経過します。市長の任期は4年間。よって、今年の5月で任期の前半が終了し後半の2年間でスタートするということになります。

…和地市長は、市長就任前には3期市議会議員として市政に携わっていたため、市政の内容や取組についての理解はあったと思います。一方で、市政を執行する側のトップである市長となって、初めて見えてきたこともあるのではないかと思います。任期前半を振り返るとともに、感じていることなどについて尾崎後援会長が和地市長に伺ってみました。

■“4つの目”で見て気づいたことは？

和地市長が市長選挙の時に訴えられていた市政運営で大切にしたい「4つの目」、すなわち「全体を俯瞰して見る“鳥の目”」、「細かなことにも目を配り、分解して深く知るための“虫の目”」、「時代の流れや変化を捉える“魚の目”」、「相手側の視点で物事を見る・視点を変える“コウモリの目”」という4つの視点はとても印象的でした。実際に、市政をリードする立場になって、これらの視点で見て印象的な事柄はありましたか？また、この視点に立ったことで適切に対応、実現出来たこと等があればお聞かせください。

…組織のトップとして様々な事柄に対峙する中では、困難な状況や、時には逆境といえるような出来事は起こるものです。そのような時は、とかく視野が狭くなるものだと思います。この4つの視点は、困難な時にあっても「自分はいったい何のために市長という立場で市政運営をしているのか」「今だけでなく、将来を考慮しても市民のためになるか」ということを見失わないように意識しているのがこの4つの視点です。言い換えると「今だけ、自分だけが無事であれば良い」ということではなく、持続可能な未来



につながる東大和市を目指す上では、非常に重要な視点だと思っています。

…市長に就任後、この「4つの目」が活きた事柄はたくさんありますが、例えば、身近な事でいえば「コウモリの目」すなわち、『相手の目＝市民側から見たらどう見えるか』という事については、様々な場面で職員に良く伝えていきます。市からは広報はもちろん、日常的な市民対応において、職員にも大切にしてほしい視点です。

…例えば、新たな制度について広報するとき、その原稿を作成している職員は、全てを熟知しています。よって、「わかっていることが前提の文章」になってしまい、初めて目にする人に対しては言葉足らずになることもあります。また、文章より、映像で示した方が伝わりやすいというものもあります。広報は「伝えた」という事実のために行うのではなく、「伝わった」という結果のために行うべきです。最近では、職員が率先してわかりやすい動画などを作成することが増えてきました。

…またクレームに対してもそうです。行政は“正しい”ことが前提ですので、「正しいか、間違っているか」ということに重きを置きがちですが、不満を感じる方は、その内容が正しいかそうでないかという事ではなく、寄り添ってくれていないと感じていることが不満の要因となっている場合もあると思います。

…行政は、行政サービスを提供している、サービス業に近い業務が多いのですが、“受け取り手”≡“お客様≡市民”の立場に立つこと、思いに寄り添う事は“正しさ”と同じくらい重要だと思います。



…まだまだ十分ではないかもしれませんが、広報の方法や内容について、職員も以前より工夫していますし、嬉しいことに職員の対応についてお褒めの言葉をいただくことも増えているように感じます。日々の業務の中で、そのような嬉しい声を頂くことは、職員の励みになりますので、頂戴した時は、職員に共有するようにしています。

■公約の高校生等までの医療費完全無償化

なるほど。「4つの目」については、市長ご自身だけでなく、職員の皆様にも意識してもらっているのですね。ところで、選挙で掲げられていた「高校生等までの医療費完全無償化」を昨年の10月に実現されました。そのほか、学校給食費の無償化についても今年の1月からスタートしています。これらは「4つの目」という視点から見て、どのように決断されたのでしょうか？

…皆さんもよく耳にされる『多摩格差』という言葉があります。多摩地区の26市は特別区の23区とは財政的に大きな差があり、同じ東京都民でありながらも、受けられる行政サービスに格差があることを示す言葉です。決断のベースは、財源には限りはありますが、この『多摩格差』を1つでも解消したいという思い。また、『未来につながる市政』ということを基本的な考えとして掲げているなか、「鳥の目」で広く都内を見渡し、現実的に格差を解消できる施策はないかという事を検討しました。また、東大和市では子どもの虫歯の罹患率が高いという課題があったこと等もあり、将来の市政や未来に効果があるものとして「高校生等までの医療費完全無償化」を実現することとしました。…身体が出来上がる過程にある子どもたちの健康は、大人や高齢者になった際の、健康にも影響がありますし、何より、全ての子どもの医療にかかる条件は家庭の収入に関係なく、平等であるべきと考えたからです。

■学校給食費の無償化を決断

…学校給食費の無償化の決断は難しかったです。東京都に限らず、全国的に子育て支援が重要施策に据えられている中、近年の首長（市区町村長）の選挙では、「学校給食費の無償化を実現しま



す！」と公約に掲げる立候補者が増えており、一種のブームのようになっていました。私は、市議会議員時代から市の財政状況をチェックしていたので、学校給食費の無償化を実現した場合の財政に与えるインパクトの大きさはわかっていました。給食費無償化を実現した場合、できなくなる事業が出てしまうことは、東大和市の行政サービス全体を低下させることにもなりかねません。…また、現行の学校給食法の第11条では、給食のための人件費、光熱水費、設備（給食センター等）については、設置者＝東大和市が負担し、それ以外の経費＝食材費については、給食を受ける児童または生徒の保護者が負担することとなっています。昨今、国会でも学校給食費の無償化について議論をされているようですが、それは学校給食法の改正ということになると思います。

…話を東京都に戻すと、学校給食費について検討していた時には、23区はすでに学校給食費の無償化は実現しており、多摩地区の26市が無償化するかどうかということに注目が集まっていました。昨年もいくつか市長選挙がおこなわれましたが、立候補者は「給食費無償化」を公約に掲げていましたし、昨年の9月ごろには東大和市を含む5市程度のみが、給食費無償化を決めかねていた状況でした。

…東大和市としても、昨今の物価高騰の中でも給食費を値上げせず、給食の質を保つために補助金を入れていましたが、東京都が補助率をぐっと引き上げることを決定したため、東大和市も今年の1月から学校給食費の無償化を実施することとしました。

…ちなみに、東京都は当初、23区を含め、給食費無償化を実施している自治体については半額を都が補助するとしていました。半額を補助していただいても東大和市では難しい。実際、給食費無償化を実施している他の市も、なかなか厳しい状況のため、東京都市長会では『多摩格差』是正のために都の補助を増やしてもらうように26市全市で要望を出しました。東京都がその声を受け止めてくださり、23区以外で、給食費無償化を実施している自治体には、東京都が費用の8分の7補助を出すことを決定してくれたことにより、最終的に



は東京都内、すべての自治体が学校給食費を無償化することになりました。…東大和市では、学校給食費の無償化、すなわち税金で給食を提供することになることを機に、改めて学校給食とは何か、その意義を考え学習的意義を高めることを推進することとしました。食育や食事のマナー、生産者への感謝などについて「学ぶための教材としての給食」という位置づけとするために、教育委員会と連携して、給食の時間の充実を図っていきたいと考えています。

…この「高校生等までの医療費完全無償化」と「学校給食費の無償化」を実現するためには、新たに年間1億円ほどの財源が必要です。4つの目でいえば「魚の目」すなわち、世の中の流れを読んでの決定と言えます。世の中や時代の波に乗ることだけが正しいことではないかもしれませんが、今回の子どもたちへの投資は『多摩格差』の解消だけでなく、『東大和市格差』を生まないためにも必要だったと思います。単に財政負担が増えたということだけで終わっては意味がありません。どれだけ効果を出すかが、今後の勝負です。

■生産年齢人口の減少を見据えた組織改革

年間で新たに 1 億円以上の経費が必要になる取組を実施するか否かの決断は大変ですよね。ぜひ、経費以上の効果が出るようにしていただきたいと思います。そのほか、「4つの目」で見た取組についてはいかがでしょうか？

…地方自治法第2条には、「地方公共団体は、その事務を処理するにあたっては、住民の福祉の増進に努めるとともに、最少の経費で最大の効果をあげるようにしなければならない」とされています。また、私は市長に就任した際に、これからは行政においても経営感覚が必要だと様々な場面で述べてきました。東大和市を持続可能で魅力ある街にするために取り組むべきことは様々なありますが、私ひとりでそれら全てを行うことは不可能です。「最少の経費で最大の効果」をあげるためには、経営の4大資源と言われる「ヒト・モノ・カネ・情報」のうち、行政が自らの努力や取組により強化できる「ヒト」を強化すべきと考えました。

…現在、人口減少が進んでいますが、これは、働き手が減少していくことを意味しています。より良い、そして、市民や時代のニーズに応えられる行政サービスを少ない人数で実現するためには、効率を

あげるためにデジタル化を進めるという方法があります。一方で、市民の声を聴いて、新しいサービスを生み出すことは「ヒト」にしかできません。…このようなことは、行政だけでなく民間企業も考えており、現代は「ヒト」を採用するのが大変な時代になっています。民間企業であれば、給与や福利厚生などで差別化するなど、より良い人材を獲得する手段は様々ありますが、行政においてはそのような差別化には限界があります。このような働き手不足という状況は今後、ますます深刻化すると考えたとき、行政サービスを安定的に維持向上させるためには正職員をしっかりと確保し、長期的に育成できる安定した組織編成にしていくべきと考えました。

…そのような状況の中、子育てや介護など、様々な家庭の事情でいったん仕事から離れた女性たちが、それらが落ち着いた後に、新たに仕事に就くことが難しいという課題があることを知りました。女性活躍ということが叫ばれている中においても、実際には一定年齢以上の女性が再スタートを切ることは困難なのが現実です。しかし、行政が行っていることを見れば、子育てや介護などを経験している人は、その実情がわかる戦力になります。また、様々な民間企業での経験も、これからの行政運営には必要な経験やスキルとなります。…よって、都内の自治体で初めて「女性の再就職応援宣言」を行い、応募資格の年齢を45歳までとして職員の採用を実施しました。おかげさまで、約15名程度の募集に対し、318名ものご応募をいただきました。同様の採用の第2弾を現在、実施しています。（応募締め切りは令和7年2月16日（日）です。詳細は市報1月1日号または市の公式ホームページを参照ください）

…そのほか、様々な人材育成に関する取組を進めていますが、おかげさまで少しずつ、組織に変化が表れているように感じます。これらの取組についても労働市場を広くみる「鳥の目」や、現役世代の人の仕事に対する考え方の変化やこれからの生産年齢人口の見通しを見る「魚の目」や、行政の仕事を細かく見て必要な人材を考える「虫の目」などによる取組ともいえるのではないのでしょうか。

（次頁に続く）





■“働きたい組織”が“住みたい街”を作る

最近、市報の内容に少し変化を感じたり、市役所の雰囲気が変わった感じがしましたが、それは、職員の皆さんの変化によるものだったのですね。最後に、今年の5月から任期の後半に入りますが、抱負を教えてください。

…最初に尾崎後援会長がおっしゃったように、実際、市長に就任したからこそ分かった課題があることは事実です。なかなか手ごわい課題だなあと思うこともありますが、私は一人ではない。市の職員が力を発揮すれば乗り越えられるし、市民の皆様の満足度も高めることができると信じています。

市役所で仕事をするということは、どの市の市役所で勤務しても業務にあまり大きな違いはない

ように思われると思いますが、組織風土や仕事の任せ方などはそれぞれの市で特徴があると思います。

情熱ある人材がやりがい求めたときに「東大和市だ！」と思ってもらえるような組織をつくること、最終的には市民の皆様の「住みたい、住み続けたい」という思いにつながると信じて、職員力を合わせて後半2年も全力で頑張ります。



～編集後記～ 後援会役員のつぶやき

◇最近、テレビで“昭和”に関するクイズや歌番組を見ることがあります。

私にとっては懐かしい内容ですが、“昭和”を遠く感じます。多摩湖の大きな桜の木が、若い木に植え替えられたように、私たちが生きていくためには、考え方も含めて変わらなければいけない時が来たように思います。古いものを手放しながら、新たなものを見つけていきたい。今は、そんな時の流れの中にいるような気がします。(N)

◇私は市長チームを応援します！

来る3月20日(春分の日)に第35回多摩湖駅伝大会が開催されます。今年は5年ぶりに多摩湖周回コースが復活します。みなさん、ご存じですか？東大和市は日本初の女子フルマラソン大会の開催地です。堰堤手前の広場には歴史を後世に伝えるための記念碑があります。な、な、なんと！この開催地で、東大和市初の女性市長、和地ひとみ市長が職員とチームを組んで駅伝に参加するとのこと。多忙な中、トレーニングに励んでいる市長、くれぐれも頑張り過ぎないでください。駅伝当日は必ず応援に駆け付けます！ファイト！(M)

※お詫びと訂正※

前号で空堀川で見られる鳥について触れましたが、「トキ」は「サギ」の誤りでした。(正)サギ (誤)トキ
お詫びして訂正いたします。申し訳ございませんでした。

◆和地ひとみ後援会のご案内◆

～後援会員の皆様には、集会などのご案内をさせていただきます～

後援会へのご入会は、和地ひとみホームページから、
(<https://hitomiwachi.com/>)

または、下記TELにご連絡ください。



東大和市長
和地ひとみ

■発行 和地ひとみ後援会 責任者：尾崎 潔
〒207-0005 東大和市高木3-393

【TEL】080-9303-9977

ホームページ